

令和5年3月28日

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人若杉学園 幼保連携型認定こども園若杉幼稚園長 東山由紀子

学校法人若杉学園 幼保連携型認定こども園若杉幼稚園学校関係者評価委員会

1. 園の教育目標

1.がんばる子 2.考える子 3.思いやりのある子	自主及び自立の精神の芽生えを養い、「知育・体育・徳育」の調和のとれた人材を育成する。
---------------------------------	--

2. 本年度の重点課題(学校評価の具体的な目標や計画)

・それぞれの年代や時期に合ったあそびを工夫する

3. 評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果は感じられなかった

自己評価			学校関係者評価委員会	
評価項目	評価	取り組み状況及び成果	評価	意見
幼児一人ひとりが自己発揮できるための指導	B	・自己発揮できるようになるためには、「信頼関係を築く」ことが必要であると考えた。学年ごとの発達段階	A	・集団だけでなく、個人を大切にしてもらっていることを感じた。

		についての理解を深めるとともに、個に応じたかかわりをするため、担任だけでなく学年全体で情報を共有できるように実践してきた。一人ひとりに対して同じかかわりができたことが、個々の成長につながったと考える。 ・成功体験を積み重ねて自己肯定感を育むために、得意なことを一緒に見つけるようにかかわってきた。結果までの過程について、本人だけでなく周囲にも言葉で伝えながら見守ってきたことで、お互いの違いを認め合える関係が育ってきたと考える。 ・一斉の活動以外に、自由に遊ぶ時間を確保してきたことによって、目的をもって行動するようになってきた。 ・1日の予定をボードに明記し、その都度、活動の開始・終了時刻を伝えてきた。その結果、子どもが見通しをもって行動できるようになり、気持ちの切り替えもスムーズにできるようになってきている。		・あそびの種類が多く、あそびを通しての成長を感じる。 ・子どもに対して褒めの言葉をたくさんかけてくれ、「させる」ではなく「自らする」声掛けをしていただいていると感じる。 ・家庭での子どもの姿から、園での取り組みの成果を感じている。 ・個に合わせた対応により、自分のことは自分でできるようになるための指導をしていただいていたと感じる。 ・言葉で本人に伝えることはとても大切なことなので、今後も継続して取り組んでいただきたい。
幼児が意欲的に遊びを進めるための環境構成	A	・「安心」「集中」をキーワードに、落ち着いて取り組める環境づくりに取り組んできた。 ・保育教諭も環境の一部として捉え、「うれしいね」「楽しいね」を共感しながらも、遊びに入りすぎないようなかかわり方を常に検証してきた。あそびの「初め」「中盤」「終盤」とそれぞれ必要に応じた介入の仕方を心掛けるようになってきた。 ・遊びだせない子や長続きしない子などへは、作品を展	A	・同じものに興味がある子をつなげていく取り組みはよい ・結果だけでなく、そこまでの過程を見守り、その都度声掛けをしてくださっていることが、一人ひとりの意欲や主体性に通じていると感じる。 ・様々な遊びを経験することで、家庭ではできない学びを園でしていると感じる。 ・異年齢児とのかかわりの中で、小さい子は大きい子の真似をしながら「憧れ」の対象を身近に見つけ、大きい子

		示したり、同じ遊びに興味を持つ子のそばで遊びだせるように場所を設定したり遊びこめる時間の確保をしてきた。また、個人差に注目し、個に合ったものが選択できるような環境設定も工夫してきた。 ・コロナにより戸外での活動を工夫し取り入れてきたことで、園周辺の自然に触れる機会が増えてきた。また、感染状況の変化により異年齢児との活動も増やしてきたことで、遊びの幅が広がってきている。 ・室内あそびと戸外あそびのバランスを考えて時間配分や場所の配分など、クラス間での連携を密にとって進めていきたい。		は小さい子のためにという気持ちが育っていることを感じる。 ・自然豊かな園の環境を十分に活かし、一年を通して同じ場所に出かけて季節の変化を身近に感じられるような保育活動ができていると感じている。 ・カプラや自然物の使い方も学年やクラスによって様々で、子どもたちが意欲的・継続的に遊びを楽しめていると感じた。
子どもを核にした家庭との連携	C	・感染状況の変化によって、参観会の形態や時期を常に見直し実施してきた。一斉の活動だけでなく、朝の時間帯での参観を設けたことで、園での生活の様子を具体的にイメージでしていただくことができたように感じる。 ・動画配信やInstagramの開設により、園で生活する様子を知っていただく機会が増えてきた。保護者の反応も好印象であるが、保護者の「知りたい」という情報となりえていたかの検証と個人情報の保護についての認識を深めていくことが必要である。 ・参観会や参加会・登降園時の様子等から得た保護者情報は、担当職員で共有してきた。また、保育中の気づきもその日にうちに共有することに努めた。その結果一貫性を持った職員対応ができ、そのことが保護者支	B	・この年代は人生において重要な時期である。そのため、園と家庭とのかかわりも大切になる。双方が理解しあえることが肝心であると考える。 ・情報発信に重点を置きすぎると、肝心の保育がおろそかになってしまう恐れがある。無理なく進めていただきたい。・園にいる時間の方が長いと感じ、園で何とかしてほしいと思っている保護者もいるようである。 ・園で実践していることの背景にある願いやねらいはとも良いものであるので、それを多くの保護者にも知ってもらいたい。 ・家庭との連携を心掛けていることは伝わってきたが、クラスの人数も多く、全体への達成度は低かったのではないかな。まんべんなく連携が取れるように今後も意識して対応していただきたい。

		援につながっていると考え。 ・園に足を運んでくださる機会が多い保護者の方とは、話をする機会は持てるが、バス通園園児の保護者とは情報交換の時間をとることの困難さを感じる。こまめに連絡を取り合うことを意識して実践することが課題である。		・バス利用者や課外クラブに参加していない保護者との情報交換は難しいと思うが、動画配信を活用は有効であると考え。 ・大人同士が会話する機会が増えれば情報交換ができ、自分が気づかなかったことに気づくことで、子育てにとってもプラスになると感じた。 ・保護者へのポジティブな声掛けは大切にしていきたい。他人と比べるのではなく、本人の育ちについての声掛けが大切だと感じる。
教育保育の質の向上のための園内研修の充実	C	・「子どもの話をしよう」をキーワードに毎日の姿を話し合うことで、発達の実態を把握し、指導の手立てについて担当職員で工夫している。 ・発達段階を押さえたあそびや玩具の提供に努めてきた結果、あそびや玩具の教材研究を深めることができた。 ・クラス交換することで、学年全体の子の把握ができ、自分自身の保育の振り返りにも繋がった。 ・オンラインの研修が随時開催されるようになってきたので就業時間をやりくりすることで、希望する研修に参加できるようにしている。 ・「きらり」の研修事業に年間を通して参加した。子どもの育ちやかかわり方について助言をいただき、複数の職員でその情報を共有することで、新たな気づきとなった。	B	・常に子どもたちのことを優先して考え実践していることに感謝する。 ・先生の人数も多いので全員の声を拾い上げるのは大変なことと感じるが、答えを出すための話し合いではなく共感他者認識力を高めるための場を設けるのもよいのではないか。 ・クラス交換することで、多くの先生にかかわってもらえ、子どもにとっても良い影響を与えていると感じる。 ・今後も、教職員全員で共通のビジョンを持ち、子どもたちの指導に当たっていただきたい。

4. 自己評価結果と学校関係者評価の結果を踏まえた、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	・引き続き、コロナ感染症の感染状況を鑑みながらの1年間であった。前年度までのコロナ禍取り組みをもとに、さらに教育保育内容を見直してきた。感染対策を十分とって、保護者の見学ができるように工夫してきた。動画配信やInstagramの開設により園での生活の様子を見てもらうことができ、保護者の方の「知りたい」要望にある程度応えることができたと考える。それらを活用することで、家庭との連携がよりスムーズになったと考える。 ・活動の見学も一部解禁となったことで、特に年長児の保護者は初めて目にすることが多く、保護者同士のかかわりもできありがたく感じた。動画配信等でも園での生活の様子を知ることができ、子どもたちの姿を目にすることで成長を実感することができた。 ・安全管理、不適切保育の予防については、マニュアルを見直し全職員で話し合う機会を持ち情報を共有した。その結果、自分たちの保育を見直す機会ともなった。 ・園での対応について周知してくださっていたことで、安心して預けることができた。 ・コロナによる制限が多いままであったが、継続して個人の成長発達に対する理解を深め、担当職員で情報を共有してきた。個の理解を深めることが集団を理解することにもつながり、時期や年代に合わせたクラス運営を常に意識しながらの保育となっていた。 ・集団だけでなく、個々にしっかりと向き合ってくださっていることはありがたい。 ・遊具や教具の理解を深め、子どもに合わせて保育環境の整備をしてきたことは評価できる。今後も継続していただきたい。 ・預かり保育の見直しということで、縦割り保育の活動を取り入れ、見て学ぶことのできる環境の中で、お互いが刺激をしあいながら生活していることがわかる。職員の配置等大変であるが工夫しながら継続していただきたい。 ・園の特色である豊かな自然を活かした保育を実践できていた。同じ場所に1年を通して出かけて変化を実感することで、子どもに良い影響をもたらしていると考えられる。 ・裏庭を整備したことで、遊びの環境が豊かになった。園内で安全に遊べる環境は良い。 ・保護者とのコミュニケーションの充実は難しい状況ではあるが、模索しながら、より良い関係づくりに努めてもらいたい。

5. 今後取り組むべき課題

- ・全職員が、園の教育目標を踏まえてどんな子の育ってほしいかの共通理解を深めていく。
- ・感染状況の変化に伴い、参観会・各種行事の形態や時期の見直しを進めていく。
- ・園周辺の自然環境についての理解を深め、自然環境を活用した保育を進める。
- ・学年ごとの発達を押さえ、子どもの姿に応じて定期的に環境の構成の見直しを進めていく。
- ・異年齢児とのかかわりが多くもてるようなあそびや時間の持ち方を工夫する。
- ・園児一人一人の理解を深めるための職員間の情報共有のための時間の確保を進めていく。
- ・保育の質を高めるための研修に努める。個人の対面やオンラインでの研修・園内の職員同士での研修
- ・ヒヤリハット事例を共有しながら、安全管理についての意識を高める。
- ・園を訪れる機会が少ない保護者との関りが円滑にできるように、工夫し改善していく。
- ・動画配信やInstagramによる情報配信について、内容や頻度についての検証を進めていく。それに伴う個人情報の保護の意識も高めていく。
- ・地域の子育ての支援の在り方について検討・実践する。
- ・働き方改革という点での業務の見直しを継続し、有給休暇の積極的取得等、職員自身の意識改革を引き続き進めていく。